

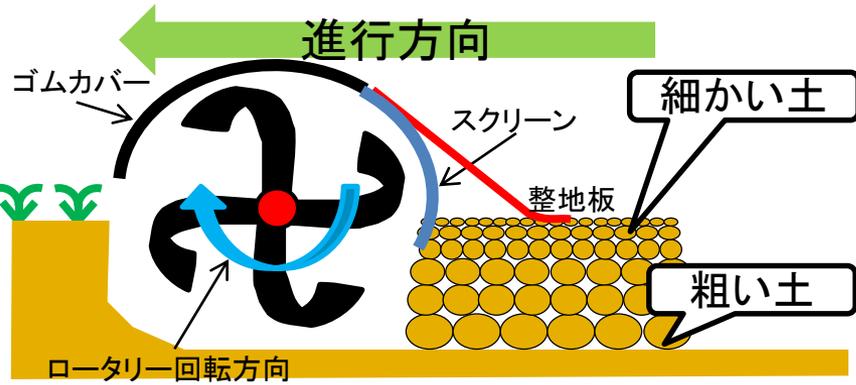
アップカットロータリーによる耕うん同時畝立て播種

○水田圃場での麦・大豆・野菜作付の湿害対策になる技術です。

○耕うん同時畝立てにより、作業工程の短縮が可能になり水田の畑地利用を推進し、高生産な水田圃場の活用を目指します。

耕うん同時畝立てのメカニズム

ロータリーの回転方向が反転することで、畝上部に細かい土壌、下部に粗い土壌が堆積する。細かい土壌は乾きやすく、粗い土壌は排水性に優れるため、播種後の発芽率、移植後の苗の活着が向上し生育を促す。また畝立てすることで、地下水位を下げることとなる。重粘土で水はけが悪い圃場でも畝立てを行い、排水性を確保することが可能。



アップカットロータリーの耕うん断面図

大豆耕うん同時畝立て播種



前日40mm強の降雨があり、前作の小麦の麦稈が残っている状態であったが、一工程での耕うん同時畝立て播種が可能

<全刈収量>

年産	播種日	収量 (kg/10a)	管内平均 (kg/10a)
28(慣行栽培)	7/12~22	125	150
29(アップカットロータリー使用)	6/22、23	191	95

作業工程の省略により梅雨時に適期播種が可能
→増収を実現

キャベツ後大麦の耕うん同時播種



キャベツの収穫翌日に、一工程で大麦の播種が可能。残渣は下層に鋤き込まれ、表層はしっかり碎土されている

詳細情報

農研機構「水稻乾田直播を核としたアップカットロータリーの汎用利用による稲・麦・大豆輪作技術マニュアル」
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/063531.html